

12月13日（水） 朝礼のお話

二 度 目 の 殺 生

今日は「二度目の殺生」というお話をしたいと思います。二度目の殺生ってなんでしょね。

私たちは毎日生きるためにたくさんのものを食べなければなりません。その食べ物ですがどんな食べ物にも共通することがあります。それはどんな食べ物でももとは何かの生き物だったということです。お肉やお魚が生き物であったことは分かりやすいですね。ではご飯や野菜はどうでしょう？これらは植物、つまり草の葉っぱや茎、そして実を食べているわけです。植物の一部と言ってもご飯や野菜も生き物の一部であることには変わりありませんね。

つまり、私たちは生き物の命を食べることによって生きています。生き物が私たちの食べ物になるためにはその生き物が死ななくてはならないわけです。生き物の命を奪うことを仏教の言葉で「殺生」といいます。私たちが生きるためにはどうしても一度この殺生をしないとイケないわけです。これは人間に限らずどんな動物でも一緒ですね。この一度目の殺生はかわいそうだけれど、私たちが生きるためにはどうしても必要なことと言えるわけです。私たちは食事の前に「いただきます。」と言いますが、この「いただきます。」には「あなたの命をいただきます。」という意味もあるのですね。

さて、このように大切な命を食べ物として私たちは食べます。食べたものは私たちの体になり、体を動かすエネルギーになって無駄なく使われます。でも、私たちが食べ残してしまったり、捨ててしまった食べ物はどうでしょう。せっかく生き物の命を奪ってまで作ったものが使われずに無駄になってしまいますね。これはとてももったいないし、死んでくれた生き物に対して申し訳ないことです。こうして生き物の命である食べ物を無駄にしてしまうことを仏様の教えでは「二度目の殺生」と呼んでいます。一度の殺生でも生き物に対しては申し訳ないことなのに、それを二度も繰り返してしまふ。これはとても残酷なことです。お寺のお坊さんたちはこの二度目の殺生をしないように、食べ物が無駄にならないように最後の最後まで食べきり、使い切るそうです。

私たちの回りにはありがたいことにたくさんの食べ物があります。でも私たちはそれらが生き物の大切な命であったことを忘れがちですね。一度目の殺生はどうしても避けられないものですが、二度目の殺生は私たちの心がけ次第でしなくても済むものです。今日のお昼に給食を食べる時からどうしたら二度目の殺生をしなくて済むのかぜひ考えてみてください。自分のわがままや好き嫌いで生き物の命を二度も奪うようなことはしたくないですね。

さあ二学期も残り10日ほどです。今週もみんなで頑張っていきましょう。今日も最後まで丁寧に聴いてくれてありがとう。お話を終わります。